



明和病院だより



2015年10月号

(1) 新任医師のご紹介 (平成27年10月1日付)

★形成外科 蔡 顯眞(部長)

10月1日より形成外科に勤務させて頂く蔡と申します。韓国釜山大学を卒業し、平成10年に入局です。韓国のソウル、釜山で学生時代を過ごし、医師となつてからは堺、新居浜、福岡、神戸で過ごし、私にとって様々な恵まれた経験と出逢いがありました。ここ、西宮でもまた新しい出逢いがあるかと思うと楽しみです。よろしくお願ひ申し上げます。

・専門：難治性潰瘍、乳房再建、外傷、熱傷

(2) 医師から皆様へく腎臓、大切にしていますか？

慢性腎臓病(CKD)は長い間放置すると、最終的に末期腎不全となり、透析療法、腎移植が必要となる事があります。また、腎機能の低下とともに、心臓や血管の病気(脳卒中や心筋梗塞など)を発症する危険性も高くなります。従つて、早期に腎障害を発見して薬や食事療法を開始し、腎臓の機能が悪くなるスピードを緩めていくことが大切です。



腎臓の働きは、尿を作り老廃物の排泄や体内水分量の調整、電解質(ナトリウムやカリウムなど)の調整をすること、それにホルモンを作り貧血の予防や血圧の維持に関与することがよく知られています。

- 慢性腎臓病(CKD)とは、①尿所見異常、画像診断、血液、病理で腎障害の存在(特に蛋白尿の存在が重要) ②GFR<60ml/min/1.73m² ①②のいずれか、または両方が3ヶ月以上持続するとされています。
- GFR(eGFR)とは、腎臓機能を表す数値で性別や年齢、クレアチニンの数値から計算して算出します。

日本のCKD患者さんの総数は1,330万人、成人の8人に1人といわれています。健康診断などで「尿タンパク+です」「Cr(クレアチニン)高めです」「eGFRが低めです」等指摘されましたら、慢性腎臓病の可能性がります。(Crも腎機能を表す代謝物です)

- 尿検査でわかる腎臓や尿路の病気にはどの様なものがあるのでしょうか？
 - ①腎炎(急性腎炎、IgA腎症など慢性腎炎) ②糖尿病による腎障害 ③がん(腎

臓、膀胱、前立腺など) ④血管炎による腎障害 ⑤尿路の結石や感染、炎症等があります。

尿はその時の状態でも変化します。例えば「ビールを飲んだあと、尿の色が無くて水みたいだった」「サプリメントを飲んだら、尿がオレンジ色だった」など。日常の尿での注意点は、季節や食事、運動などによって尿の状態は変わるので、尿の回数や量にはさほど神経質にならなくても大丈夫です。尿が白く濁っていたり、血が混ざっていないかなど色や透明度を中心にチェック下さい。

●CKDの危険因子は？

- ①高齢 ②CKDの家族歴・低体重出産 ③過去の検診での尿所見の異常や腎機能異常、腎の形態異常の指摘の有無 ④常用薬(特に痛み止め)の長期服用 ⑤急性腎不全の既往 ⑥喫煙歴 ⑦片腎、小さい腎臓 ⑧高血圧 ⑨耐糖能異常、糖尿病 ⑩肥満、高脂血症、メタボリックシンドローム ⑪膠原病、全身性感染症の有無 ⑫尿路結石、尿路感染症 などがあります。

最後に、腎臓は自覚症状がなかなか現れにくい臓器です。そのため、尿や採血など検査してみないと異常に気がつきにくく、自覚症状が現れた時には症状が進行していることがあります。腎臓病が進行する前に早く病気に気付くことが大切です。また、腎臓は一度悪くなると治りにくい臓器でもありますので、危険因子が多い方は危険因子を減らす努力もお願いいたします。

腎・透析科 医長 豊田 和寛

(3) 医療講座(公民館主催)のお知らせ

- ・演 題：感染、インフルエンザについて
- ・講 師：感染防止対策室 感染管理認定看護師 奥田 久美子
- ・日 時：10月27日(火) 14:00~15:30
- ・場 所：学文公民館(Tel.41-6050) ※無料(参加自由)



(4) 「心のうたコンサート」のお知らせ

今月は「心のうたコンサート」を開催します。心の片隅に懐かしい思い出とともに眠っている歌を、心をこめてお届けします。

- ・日 時：10月21日(水) 15:30~16:30
- ・場 所：中央館4階ロビー
- ・内 容：日本のうた、童謡、唱歌



(編集発行人 事務部長 沖田 明弘)